

ヴェネツィア版

No.2

ティツィアーノと
ヴェネツィア派展
非公式ガイド

2017年2月23日

謎の美女フロローラ来日

魅惑的な姿に、来場者も思わずため息

巨匠ティツィアーノの描く美女《フロローラ》が来日中！誰もが認める美貌だが、その美貌の主は謎に包まれている。《フロローラ》と呼ばれているが、じつはこの絵が花と豊穣を司る古代ローマの女神フロローラの名前で呼ばれるはじめたはずと遅く、一七世紀に入ってからなのだ。

今まで挙げられた彼女のモデル候補は、ヴェネツィアの高級娼婦、貞淑な若き花嫁、ティツィアーノの恋人、などなど。特定のモデルなんか本当はいなくて、当時の宮廷の男性たちがしきりに話題にした、「僕らが考える最高の女性」を視覚化したものだという話もある。

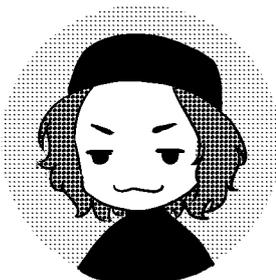
一六世紀ヴェネツィアでは、こうして「美を描くこと」そのものを目的とするような美女像が盛んに制作された。《フロローラ》はその極致ともいえる逸品だ。薄衣が滑り落ちて露わになる胸、なめらかな肌にやわらかく流れ落ちる髪。触覚を刺激する表現が多用されるが、決して触れられないところも、彼女の魅力の一つである。



▲ティツィアーノ《フロローラ》1515年ごろ
カンヴァスに油彩、ウフィツィ美術館蔵

セレニツ島のご意見番

ピーノに訊け！



パオロ・ピーノ▼
画家・美術批評家。
著書に『絵画問答』がある。

美しいものを描こうと思っても、自然をそのまま模写してはいけません。自然に存在するものは、つねに美しいわけではなく、そうでないところも含んでいるからです▼古代ギリシャの優れた画家ゼウクシスは、あるとき五人の乙女を集め、彼女らそれぞれのも

っとも美しい部位を取り出し、パッチワークのように一人の人間に切り貼りして、絶世の美女を描いたのだとか▼わたしたちの時代の画家も、この方法を参考にすべきです。真に美しいものを描くには、自然を矯正してあげることが必要なのです。

ルネサンス宮廷男子5人に聞きました！

ズバリ、これが理想の女子だ！

髪

豊かで長い巻き毛で色はぜったい黄金！

鼻

小さくて左右対称
鷲鼻はNG

口

平らでも尖っててもダメ！小さいとよい笑ったときに見える美しい歯は5本まで！

腹

清らかでまったくの平ら

脚

長くまっすぐでやわらかく、ふくらはぎには適度な肉付き

眉

黒くて細くて弓形

眼

真っ黒な黒目がいいと思われがちだけど、あえて黄褐色がベターでも瞳とまつげは黒！

耳

赤みがかった白バラの色
整った上品な隆起
フキはザクロのような赤

胸

小ぶりで丸く引き締まっています色は純白！

手

象牙のような白さ
手のひらの窪みはバラ色

爪

ほんのりバラ色
根本にはいつも白いアーチ状の部分



一六世紀の宮廷の紳士たちのあいだでは「理想の女性」について議論するのが大流行中。そこで本紙では、どのような女性が魅力的だと思われるのか、彼らの意見を調査した。結果は左図の通りである。もともと諸氏のこだわりは仔細に及ぶが、紙面の都合により

り適宜割愛した。当然、これらの条件を全て兼ねそなえた女性など、この世に存在しない。そんな理想の女性が出てくるのは、絵画や文学の中だけである。実際のところ、彼らの意見も、文学作品のキャラクタールからインスピレーションを受けているようだ。

ティツィアーノの描き方について明らかに

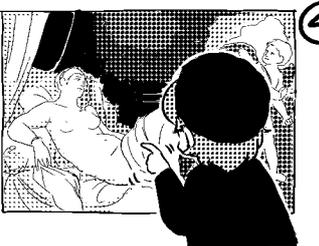
工房関係者が明かす制作の現場

ティツィアーノ氏による、うっとりするような女性像。その制作法がいに明らかとなった。同氏の工房に勤務していた画家パルマ・イル・ジョーヴァネ氏が、工房で目撃したティツィアーノ氏の裸体の描き方を、詳しく報告したのである。具体的な制作プロセスには、粗描きの状態ではしばらく寝かせておいたり、また仕上げでは指を使う

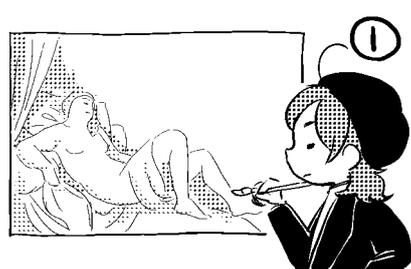
など、独特な方法が見られ、ティツィアーノ氏の多様なテクニックを知ることができる。また、カンヴァスに直接描きながら細部に変更を加えている描き方は、最初に下絵をしつかり制作するフィレンツェの方法とはまったく異なるものだ。このパルマ氏の報告は、美術批評家マルコ・ボスキーニ氏によって近日出版予定。



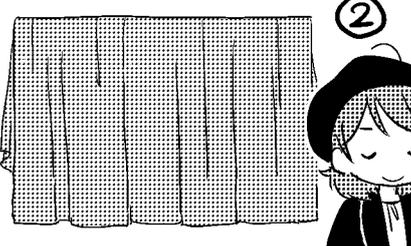
③ 身体の変なところをガンガン修正。贅肉を削ぎ落としたり、腕を矯正したり...まるで外科手術!



④ 最後に、指でひっかいたり擦ったりして色を調整し、生き生きとした肌に仕上げてゆく。



① まず、カンヴァスに地塗りを施し、そこに赤・白・黒・黄を使って身体の形や凹凸をざっくり描く。



② 何ヶ月か放置。その間は、この絵をできるだけ見ないようにする。

公会議、 絵画表現 に影響か

ティツィアーノ氏の人気主題《マグダラのマリア》のデザインが大幅に変更されることがわかった。同氏はこれまで「悔い改めるマグダラ」を、自らの髪で裸体を覆い隠す若い女性

としてあらわしてきた。しかし同氏は、このたびマグダラを裸体で描くのをやめ、着衣の女性として表現する意向だ。変更の理由は一五四五年から六三年にかけて開催されたトレント公会議での決定事項にあるとみられる。この宗教会議では、絵画中の聖人の表現は、その聖人であることが見てはつきりとわかるようであればならぬと決定されたのである。また、「悔い改め」の場面を強調するようなシンボルも描きこまれる模様。

※マグダラのマリアは、かつて娼婦だったけれどその後悔い改めた、という聖人です。

1533年に描かれた 《マグダラのマリア》

- 娼婦としての面影を残す、若く美しい女性
- 長くのびた金髪で裸体を覆い隠す姿
- 彼女がマグダラであることを示すのは、側に置かれた香油壺だけ



1567年に描かれた 《マグダラのマリア》

- 過去の罪を連想させるよう、美貌はそのまま
- ハズレ者であったことを表す編模様の衣をまとう
- 聖書や頭蓋骨など「悔い改め」を示すシンボルもある



〈広告〉

お騒がせ詩人の最新作は
宮廷人をめぐる喜劇!?

ラ・コルティイジャーナ

ピエトロ・アレティーノ 著

マルコリーニ・パブリッシング

【展覧会情報】

ティツィアーノと ヴェネツィア派展

2017年1月21日～4月2日

東京都美術館

9:30～17:30 [金曜は20時まで]

月曜休館 [3/20、3/27は開館]

【瓦版発行者情報】

めり [Twitter: @cari_meli]

某大学でイタリア・ルネサンス美術史を研究している。

「クーリエ・ジャポン」で
美術史コラム「リナシタツ」
を連載中! 見てみてね! →



【予告】

「ヴェネジア瓦版」第3号は…

ヴェネツィアはティツィアーノ
だけじゃない! ヴェネツィア派
の愉快な仲間たちを紹介します。

3月10日 ごろ配信予定!

(書いてれば)